

# 目次

## 序章 ワークシステム・サポートプログラムの概要

- 1 障害者職業総合センター職業センターにおける発達障害者に対する支援プログラムの取組 . . . . . 2
- 2 WSSP の構成 . . . . . 2
  - (1) WSSP の要素 . . . . . 2
  - (2) WSSP の構造 . . . . . 2

## 第1章 作業管理支援の概要

- 1 目的 . . . . . 6
- 2 作業管理とは . . . . . 6
- 3 作業管理課題とは . . . . . 6
- 4 作業管理支援における実行機能とは . . . . . 8

## 第2章 作業管理支援の改良の視点

- 1 地域障害者職業センターにおける作業管理支援の導入状況 . . . . . 12
- 2 「適用対象者の拡大」に向けた検討 . . . . . 12
  - (1) 対象者の状況に合わせた運用 . . . . . 12
  - (2) アセスメントの視点の見直し . . . . . 12
- 3 「柔軟な実施方法」の検討 . . . . . 13
- 4 具体的な取組 . . . . . 13
  - 【特別寄稿】「訓練による認知機能の向上と転移の課題」  
滋慶医療科学大学大学院医療管理学研究科 岡 耕平 教授 . . . . . 15

## 第3章 適用対象者の拡大のための各フェイズにおける実施上の工夫

- 1 適用対象者の拡大 . . . . . 18
- 2 フェイズ1 ～動機づけを高める仕掛け～ . . . . . 19
  - (1) 作業管理課題実施前の対象者のレディネス . . . . . 19
  - (2) オリエンテーション資料の導入 . . . . . 20
- 3 フェイズ2・3 ～なぜできているのかへの視点の転換～ . . . . . 28
  - (1) 行動観察シートの改良 . . . . . 28
  - (2) ふりかえりシートの改良 . . . . . 31
  - (3) ふりかえりシート等の構成 . . . . . 33
- 4 振り返り相談の効果的な進め方 ～作業スキル発見ノートの活用を中心に～ . . . . . 36
- 5 改良版作業管理支援の実施例 . . . . . 44

## 第4章 作業管理支援の柔軟な実施方法

1	柔軟な実施方法	57
	(1) アセスメントしたいことを絞って課題設定を行ったケース	57
	(2) 作業管理課題を1回で終了したケース	60
2	ジョブリハーサルとの併用	62
3	テレワークにおける作業管理支援の活用の可能性	66
	(1) 行動観察シートの活用	66
	(2) 振り返りシートの活用	66

第5章	まとめ	70
-----	-----	----

巻末資料	71
------	----

付録	作業管理支援 Q&A 集	100
----	--------------	-----

# 序章

## ワークシステム・サポートプログラムの 概要

## 序章 ワークシステム・サポートプログラムの概要

### 1 障害者職業総合センター職業センターにおける発達障害者に対する支援プログラムの取組

障害者職業総合センター職業センター（以下「職業センター」という。）では、知的障害を伴わない発達障害者（以下「発達障害者」という。）を対象とした「ワークシステム・サポートプログラム」（以下「WSSP」という。）を実施しています。職業センターは、WSSPの実施をとおして、発達障害者の職業リハビリテーションにおける支援技法の開発・改良と、その成果の伝達・普及を行っています。

### 2 WSSPの構成

WSSPは、13週間のプログラムを通じて①障害特性と職業的課題、就労上のセールスポイントなどについて把握すること、②個々の課題への対処方法、周囲に求める配慮などについて整理すること、③職業生活を維持するために必要なストレス・疲労への対処行動などの習得を図ることを目的としています。

#### (1) WSSPの要素

WSSPの構成要素は、大きく「就労セミナー」「作業」「個別相談」の3つに分けられます。

##### 【就労セミナー】

問題解決技能トレーニング、職場対人技能トレーニング、リラクゼーション技能トレーニングおよび手順書作成技能トレーニングの4種類の技能トレーニングを通じて、職業生活を維持するために必要な技能の習得を図ります。

##### 【作業】

ウォーミングアップ・アセスメント期と職務適応実践支援期の2期に分かれます。

ウォーミングアップ・アセスメント期では、シンプルに構造化した作業環境のもと、ワークサンプル幕張版<sup>\*</sup>などの実施を通じて、作業遂行上の障害特性の現れ方を確認します。並行して、作業の進め方の工夫や環境調整などを行いながら、各受講者の障害特性に応じた対処方法を検討するための情報を収集します。

職務適応実践支援期では、より就労場面に近い作業環境を設定し、検討した対処方法や受講者に応じた周囲のかかわり方（指示の出し方など）を試し、その効果を検証します。

##### 【個別相談】

支援者は受講者と毎週1回、相談を実施し、プログラム内での受講者の言動や就労セミナーで得られた知識・スキルについて受講者自身がどのようにとらえたかを確認し、自身の特性、困っていることや苦手なことへの対処方法、周囲から配慮を得たい事項などについて整理します。

#### (2) WSSPの構造

WSSPでは、支援を効果的に進めるために「就労セミナー」「作業」「個別相談」の各場面を関連づけながら支援を行います（図1）。例えば、「作業」において手順を何度も間違

うといった課題が確認された場合、「就労セミナー」の問題解決技能トレーニングにてグループ・ディスカッションを行い、手順を間違わないための対処方法を検討します。また、「個別相談」では、検討した対処方法をどのように実行するかを話し合ったり、実行した結果の振り返りなどを行っています。

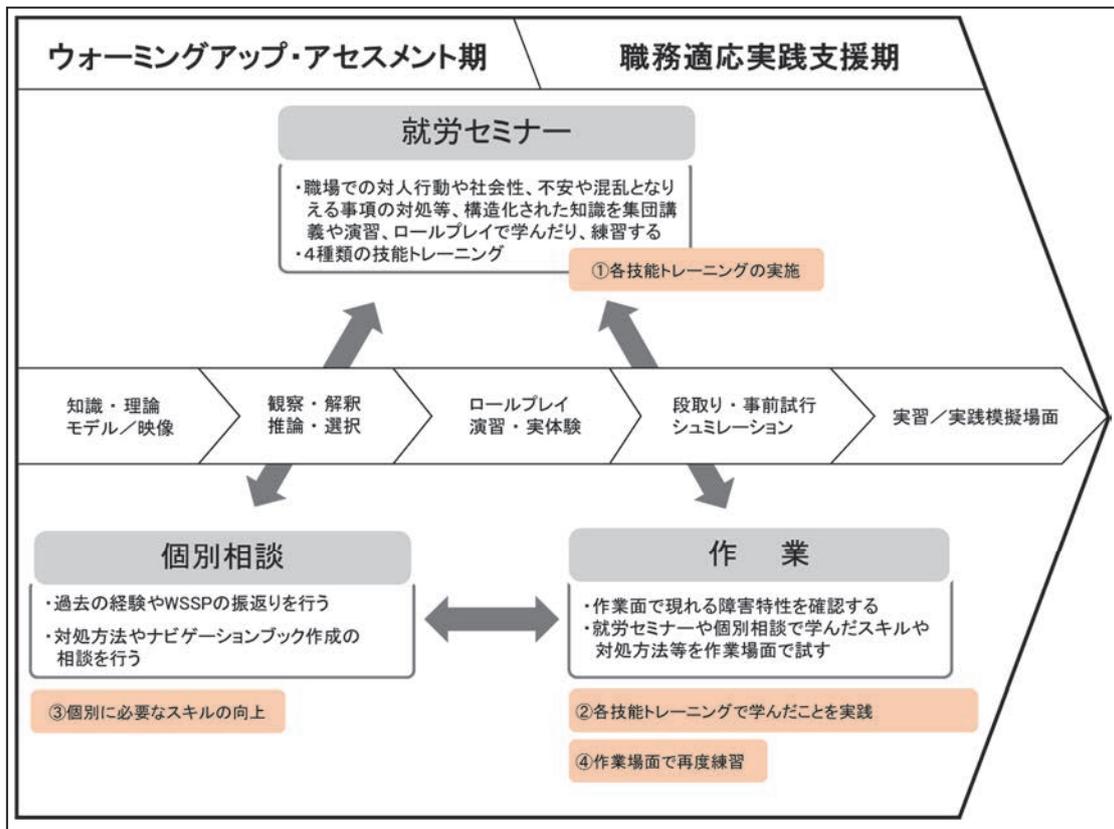


図1 WSSPの構造（「就労セミナー」「作業」「個別相談」の関連）

※ ワークサンプル幕張版とは、職業リハビリテーションの中でさまざまに現れる対象者の課題について、作業を通じてその状況を把握したり訓練できるツールのことです。現在、16種類のワークサンプルが開発されており、主に作業体験や作業能力の初期評価に用いられる「簡易版」と、作業能力の向上や補完方法の活用、作業やストレス・疲労への対処行動などのセルフマネジメントスキルの確立に向けた支援に用いられる「訓練版」が用意されています。

また、訓練版には各ワークサンプル内に難易度が設定されています。難易度は、処理すべき情報量、情報処理の複雑さや認知的負荷（一時的に記憶しなければならない情報量、注意配分数、確認箇所数など）の増加などによって高くなります。

#### 【参考文献】

- 障害者職業総合センター：「トータルパッケージの活用のために（増補改訂版）ーワークサンプル幕張版（MWS）とウィスコンシン・カードソーティングテスト（WCST）幕張式を中心としてー」（2013）
- 障害者職業総合センター職業センター：「支援マニュアル No.4 発達障害者のワークシステム・サポートプログラム 障害者支援マニュアルⅡ」（2009）
- 障害者職業総合センター職業センター：「支援マニュアル No.6 発達障害者のワークシステム・サポートプログラム 発達障害者のための職場対人技能トレーニング（JST）」（2011）
- 障害者職業総合センター職業センター：「支援マニュアル No.8 発達障害者のワークシステム・サポートプログラム 発達障害者のための問題解決技能トレーニング」（2013）
- 障害者職業総合センター職業センター：「支援マニュアル No.10 発達障害者のワークシステム・サポートプログラム 発達障害者のためのリラクゼーション技能トレーニング ストレス・疲労のセルフモニタリングと対処方法」（2014）
- 障害者職業総合センター職業センター：「支援マニュアル No.13 発達障害者のワークシステム・サポートプログラム ナビゲーションブックの作成と活用」（2016）
- 障害者職業総合センター職業センター：「支援マニュアル No.15 発達障害者のワークシステム・サポートプログラム 手順書作成技能トレーニング」（2017）